



# 西部教育局からのお役立ち情報

## 今月のトピック紹介版

3月号



子どもたちの学力向上を確実に図る  
校内研究の充実に向けて  
～次年度をスムーズにスタートするために  
校内研究を振り返りましょう～

校内授業研究会【学校訪問からの好事例紹介】  
ICTを活用した事後研究会について  
～Canva（キャンバ）～

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」  
次年度へ向けて  
3学期にできることを考える②

# 子どもたちの学力向上を確実に図る校内研究の充実に向けて

西部教育局  
お役立ち情報  
令和7年3月号

～次年度をスムーズにスタートするために校内研究を振り返りましょう～

この時期は子どもたちにとって、1年間の学習のまとめをする時期であると同時に、先生方は1年間の校内研究のまとめをする時期でもあります。今年度の校内研究の取組によって、授業改善は進んだか、子どもにどんな力が付いたのか、どんなことができるようになったのか等、今年度の成果と課題を整理し、年度内に「次年度の校内研究の構想(子どもの実態から見えてきた研究の方向性・校内研修の計画・校内授業研究会の日程等)」をしていきましょう。そうすることで、4月の新体制での校内研究をスムーズにスタートすることができます。

## 今年度の取組から次年度の研究の方向性を定め、 スムーズな次年度のスタートに向けた準備をしましょう。

### 取組例

### 他校と取組の共有をして自校の研究の充実へつなげる!

本校では、学校教育目標を基に、研究テーマを全職員で共有し、年度当初に設定した成果指標・目標値等に照らして、取組そのものの効果についても検証しています。

指標を設定することで、目的が明確化、具体化されるので、子どもの変容や取組の成果を全職員で実感することができます。

また、研究主任だけでなく、研究部の先生に年度当初の研究職員会で研修をしてもらったり、職員会後にミニ研修会をしたりしています。

4月には、教員自ら学ぶ姿勢を持つように研究の個人目標を立ててもらい、1年間を通して検証していきます。



A学校  
研究主任



Good! なるほど、年度当初に成果指標・目標値を設定することで、より客観的な見取りができるんですね。



Good! 今年度中に成果指標に使えるようなデータは何かを考え、そろえておかななくては…。



Good! 研究主任だけが研修するのではなく、校内の先生方にも年度当初の研修や先生方の強みを生かしたミニ研修などで活躍してもらいたいですね。



Good! 研究を自分事にするために、個人目標を立てるのはいいアイデアですね。自分自身を振り返るためにも個人目標はいいですね。



B学校  
研究主任



B学校  
研究主任

(令和6年度第2回研究主任等情報交換会より)

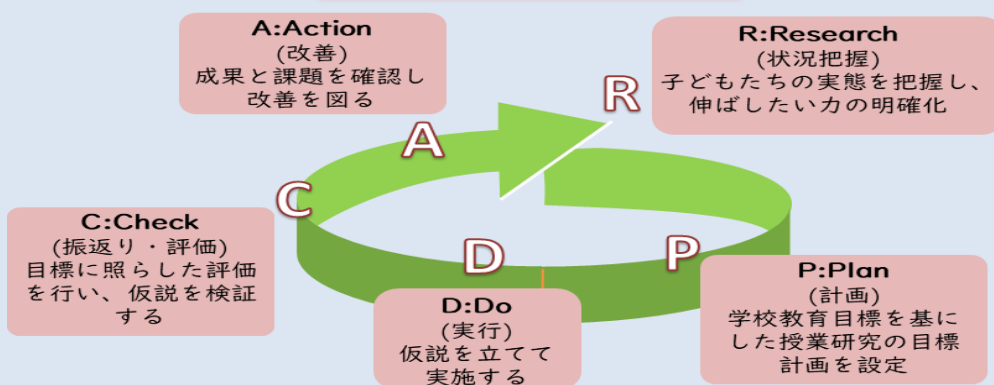
今年度、できることは?

◆1年間のまとめのこの時期に、その年に実施した学校評価や学力調査・アンケート等を生かした「現状把握」や「分析・診断」、「課題づくり」までを実施し、学校目標が達成できたかを具現化し、校内研究のサイクルを教職員と確認し、共通理解します。



- 研究主任だけでなく、チームでの取組になっていますか?
- 成果と課題、次年度の研究主題は全職員で共有できていますか?
- 一人一人が校内研究を自分事として捉えていますか?

### 校内研究のサイクル



西部教育局HPで、お役立ち情報や校内授業研究充実のためのポイント(リーフレット)を御活用ください。



⇒4月のスタートは新たなメンバーでの「組織づくり」からはじめることができ、早い時期に「実践」に移すことができます。研究の体制を早く確立することで、4月当初は、子どもと触れ合う時間を多くもつことができるというメリットもあります。

授業公開後の研究会について、ICTを効果的に活用しながら協議を深めている事例を御紹介します。



米子市立淀江中学校の実践より

授業公開前

「授業参観の視点」「授業研究会の内容」「グループ分け」等のアナウンスをしておきます。また、Classroomのストリームに、Canvaのリンクをアップロードし、**事後協議のグループ(A~E)ごとのシートを用意**しておきます。授業参観の視点に沿って、良かった点や改善点などを**授業参観中に書き込んでも、参観後の事後研究会が始まるまでに書き込んで良いこと**にしておきます。



- 【事後研究会の流れ】
- ①開会あいさつ・講師紹介(2分)
  - ②授業者の自評・意図説明(5分)
  - ★③グループごとの意見交換(25分)
  - ★④各グループからの報告(10分)
  - ⑤講義・指導助言(45分)
  - ⑥閉会あいさつ(3分)
- ★ 振り返り

校内授業研究会実施のためのポイント(P.7~)御参照ください。



西部教育局HPより



◎ 授業参観の視点

「淀江中学校 授業研究会要項より」

※タブレットを使用して研究会を行います。

「R6 淀江中学校教職員」のストリームにCanvaのリンクをアップロードするので、各グループのシートに付箋を貼付してください。授業参観中に貼付が困難な場合は紙にメモを取り、研究会前に貼付してください。淀江中学校以外に勤務されている先生方には事前にリンクを送付しますので、そこからアクセスしてください。

青の付箋:良かった点、自分の授業に生かすことができる点

赤の付箋:改善点、まだ工夫できる点

を記入してください。

- 教えどころ(モデリング) → 確かな導き・基礎知識、技術の習得  
Ex)文法、聞き方、話し方、学習規律 etc  
☆指導者が「指示・提示」する内容、方法は適切であったか
- 考えさせどころ(コーチング) → 場の設定・自学支援  
Ex) 課題の自己設定、問題解決学習、学び合う集団、生徒のアイデアを活かした学習 etc  
☆生徒が自律的に学ぶ「場の設定」及び「自学支援」は適切であったか  
→「学び合う場面」を適切に演出できていた  
→生徒同士が関わり合う場面は適切であったか。  
→「学び」から離れた生徒に対する指導者の対応が適切であったか。
- 価値づけどころ(フィードバック) → ほめる・勇気づける・さらなる学習への意欲向上につながる  
☆本時の学習に対する「価値づけ」は適切であったか  
→振り返りが適切に行われていた  
→○○さんに対して「△△」のような声かけが必要であった  
→××のような場を設定し、生徒が本時の学習について振り返る時間を確保するべきであった

注意 参観者は、生徒に話しかけない、グループ学習のとき以外は机間を歩き回らないで参観してください。

★③意見交換

グループごとの意見交換では、書き込まれた付箋をもとに協議を進めます。**他のグループの様子も適宜参照したり、協議の中で新たな意見が出たら付箋を加えたりしていきます。**端末上だけでなく、出た意見を基に指導案に書き込みをするなど、先生方一人一人が**自分に合った方法**で学びを深めています。



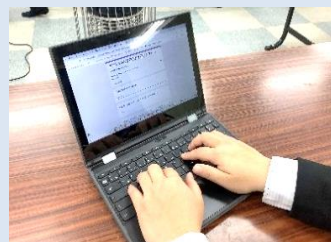
★④報告

各グループからの報告では、**大型モニターに該当箇所を拡大して写したり、それぞれが手元の端末で確認したり**しながら聞けるようにしています。



★振り返り

講義・指導助言を受けた後、各自が**GoogleFormsで振り返りを回答**します。回答された内容は、後日、研究主任から共有されます。



◎研究協議をした内容がClassroom上に残ること、いつでも誰でもどの場所にも見返すことができます。

◎端末上で意見を出し合うことで、他のグループで出た意見も参照しながら協議を進めることができます。

◎校内研究会等の校務で教員が一緒にICTを活用することで、使い方に慣れ親しむことができます。教員が使い方に慣れることで、授業での活用にもつなげていくことができます。



Canva(キャンバ)教育版



利用開始時は、Googleの9点リーダーにあるCanvaアイコンか、左のQRコードでお入りください



「教育DX」



Canvaの使い方については、「授業支援サイト」を御参照ください。

※ Googleアカウント (@g.toriko.ed.jp) でログインしてください。



次年度へ向けて3学期にできることを考える②

2月号では、学校の取組について、生徒指導の成果と課題の視点から分析、改善することについてお伝えしました。3月号では、自分自身の取組を生徒指導の視点から振り返ってみましょう。

生徒指導の目的

生徒指導は、**児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える**と同時に、**自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える**ことを目的とする。生徒指導提要PI3



生徒指導の「目的」を達成するためには、**児童生徒一人一人が**  
**※「自己指導能力」を身に付けることが重要です。**

※ 深い自己理解に基づき、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標達成のため、自発的、自律的かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力。

自己指導能力の獲得を支える際に留意する実践上の視点を通して、自分自身の取組を振り返ってみましょう。

視点	チェック項目(取組例)
<p><b>自己存在感の感受</b></p> <p>「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 学級の全員に役割がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 役割に応じて、取組を認める評価や声かけをしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業において、どの生徒にもわかる授業、おもしろい授業になるよう創意工夫をしている。等</p>
<p><b>共感的な人間関係の育成</b></p> <p>支持的(児童生徒の発達を支える働きかけ)で創造的な学級・ホームルームづくりをする。</p>	<p><input type="checkbox"/> 一人一人の発言に傾聴したり、児童生徒同士がお互いの話を肯定的に受け止める聞き方を指導したりしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童生徒同士が認め合う活動を設定している。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業において、児童生徒の思いをつなげることで、全員で学びが深まっていることを実感させている。</p> <p><input type="checkbox"/> 発表や課題提出において、様々な考えに「なぜそう思ったのか」など、お互いの考えについて関心を抱き合う授業づくりを意識している。等</p>
<p><b>自己決定の場の提供</b></p> <p>自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験の場をつくる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 学級に必要な決まり等について話し合いで決める時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 教師からの指示や提案ではなく、児童生徒間で対話や議論をすることができる環境や機会をつくっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業において、児童生徒の問いから課題を設定している。等</p>
<p><b>安全・安心な風土の醸成</b></p> <p>お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らがつくり上げるようにする。</p>	<p><input type="checkbox"/> いじめや暴力行為など、他者の人格や人権をおとしめる言動を決して許さないことを伝えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童生徒への配慮に欠けた言動、暴言や体罰等は決してしない。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業において、児童生徒の個性が尊重され、安全かつ安心して学習できるよう配慮している。等</p>

自己指導能力の獲得を支えるための4つの視点を持つことで、生徒指導が学級経営の中で自然と機能し、児童生徒にとってより良い学級へとつながっていきます。



1年間の取組の振り返りについて、昨年度のお役立ち情報(3月号)でも、「学校・学級づくり」と「子供の状況把握の共有」の視点で御紹介しています。御活用ください。

